

どうぶつこうえんニュース



 **千葉県動物公園**
Chiba Zoological Park

No.56
2005
夏

『お待たせいたしました』



前号でお知らせしたバードホールの改修工事も予定どおり無事終了しました。

来園者には、工事中ご迷惑をかけましたが、3月12日より再びバードホールでの鳥たちの姿を、ご覧いただけるようになりました。

工事期間中、鳥たちは少し寒い場所で狭いケージと、条件の悪い環境で飼育されていましたが、ほとんどの鳥が無事戻ってくることができました。(当たり前

ことですが)

えさは、バードホールでは大きな容器で与えていましたが、ケージに分けられたことにより、個々の容器で与えました。担当者として鳥の飼育数は理解していましたが、容器の数で改めて鳥の飼育数を実感することができました。

ただ、これだけの数の鳥(11種38羽)を放しても、目立つ鳥が少なく広いバードホールなので、少し時間をかけないと見つけることが難しいということが残念です。

今、鳥たちは警戒し、樹木の中や高いところにいることが多いのですが、この号が出る頃には落ち着き、姿を見せてくれる機会も増えてくると思います。

野外でのバードウォッチングの練習のつもりで鳴き声を頼りに観察をしてみたいかがでしょうか。

また、改修は植物担当者が力を入れて整備しましたので、一見植物園に来たように感じることでしょう。鳥だけでなく植物の観察も楽しんでください。(飼育担当者の私にはよくわかりませんが)

伴野 修一 (Syuichi Banno)

目次

CONTENTS

表紙【アメリカバイソン】	①
トピックス【お待たせいたしました】	②
子ども動物園より	③
飼育動物の遊び道具	④～⑤
健康管理センターから	⑥
動物園の動物【フクロテナガザル】	⑥
動物公園日誌から【'05.1/1～'05.3/31】	⑦
裏表紙【レッサーパンダ】	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 アメリカバイソン

アメリカバイソンの巨体は、そびえたつ肩のコブに象徴される。体高は2mにも達し、体重も1,000kgほどになる。その巨体にもかかわらず、時速60km以上で走ることができる。優れた聴覚と臭覚があり、野生下では、1日の大半を食事に費やす。1頭の支配的なオスが、率いるオス同士の群れ生活をしており、繁殖季節だけメスと合流する。季節の変化とえさを求めて、毎年数百kmを移動する。かつては、5,000万頭も生息していたが、現在は、飼育下から再導入された個体およそ20万頭がアメリカ西部および北部に生息する。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成17年4月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 30.Apr.2005

哺乳類	67種	413点	両生類	1種	1点
鳥類	76種	285点	魚類	0種	0点
爬虫類	6種	30点	総計	150種	729点



子ども動物園より(1)



平成13年にリニューアル・オープンした子ども動物園。たくさんのイベントの中から、今回は4つみなさんにご紹介しましょう。

高橋 宏之 (Hiroyuki Takahashi)



「うんこそうじにチャレンジ！」(ヤギとヒツジの広場)

広場の入口にセットされているほうきとチリトリ。さあ、それぞれを手に持って飼育係の仕事にチャレンジ！ヤギやヒツジのうんこ(フンといいます)ってどんな形かな？においはどんな感じ？どう？意外にくさくないでしょ。形もコロコロしていて黒豆のよう。あっという間にそうじ完了！みんなのおかげで広場もピカピカ。そうじの後は、ヤギやヒツジたちに優しくさわってあげてね。

「ヤエさんと写真撮影」(子ども牧場)

土曜日・日曜日・祭日の午後2時30分～3時には、ぜひ子ども牧場へ足を運んでみてください。体重が700kgもある大きなペルシュロンのヤエさんがみんなを待っています。見かけによらずとってもおとなしいんだ。みんなもすぐに好きになってくれるとうれしいな。素敵な笑顔で写真をパチリ！ばっちり決めてね！



「テンジクネズミの橋渡り」(コンタクト・コーナー)

午後3時～3時30分頃、ぜひ、コンタクト・コーナーへいらしてください。テンジクネズミのお母さんと子どもたちが、外の放飼場から室内へ入る時のお手伝いをみなさんにさせていただきたいのです。え、それは何かって？実は、放飼場から室内へ入る時に、長い橋をセッティング。その時、みなさんに鈴を鳴らしていただきます。すると、あら不思議！鈴の音を聞くと、スルスルスルッと橋を渡り始め、一列になってテンジクネズミが

室内へ入っていきます。室内にはテンジクネズミのエサが用意されていて、おいしそうに食べる様子をご覧ください。小さいながらもとても賢いテンジクネズミたちにぜひ会いにいらしてください！

「ウサギたちを見分けてみよう！」(ウサギの広場)

ヤギとヒツジの広場の中に入って、左側・奥のほうをのぞいてみてください。そこは、「ウサギの広場」。ウサギたちが自由にのんびりしている様子をご覧ください。午後2時30分頃に見学においでいただくと、放飼場から室内へもどるウサギたちの様子を観察できます。室内は5つのブースに分かれています。ウサギたちはいつも自分の過ごすブースへとちゃんと戻っていきます。表側には、1頭1頭を名前と写真で紹介しています。似ているようでよく見ると、顔つきも模様も違ってきます。ぜひ、みなさんもよく観察して、1頭1頭を名前と呼んでみてください。ぜひ、みなさん一人一人のお気に入りのウサギを見つけてくださいね！



飼育動物の遊び道具

類人猿はとても頭がいい動物です。それゆえにエンリッチメントはとても重要です。しかし類人猿であるがゆえにエンリッチメント実施にあたりいろいろ考慮しなくてはならないさまざまな問題が発生します。類人猿は“頭もいい”し、“力も強い”ので、遊具を与えたり設置するときには細心の注意が必要になります。なぜならやわな遊具は簡単に壊してしまうし、その壊したもでの二次的な破壊（施設の破壊やガラスなどの破損）や、破壊物（ロープや木材など）を使っての脱走などが考えられるからです。以上のことをふまえて、当園の類人猿の遊び道具をご紹介します。

類人猿のエンリッチメント

竹製採餌器及び楽器 オランウータン

これはまず竹製の楽器を先に作りました。オランウータンのオス（フトシ）が木の棒などで網の中からの木の葉などをいじっていたのをよく見かけたからです。楽器を作って木の棒を渡せば鳴らして遊んでくれるだろうと思ったのです。しかしもくろみは見事失敗に終わりました。最初少しだけ遊んでその後は見向きもしてくれなくなったのです。そこでその後採餌筒を付設し、中にはちみつやお菓子を入れてみました（写真）。これにはさすがに飛びつきました。棒を与えるとすぐにその趣旨を理解し、上手に檻



の中から外にある筒内の食べ物を採って食べました。ただ問題はそれに使う木の棒で、あまり頑丈な太い棒は上記の理由で与えられません。また棒に引っ掛かりがあるとそれを使って外部の植栽などを引っ張り込んでしまう恐れがあります。そこで竹の枝を加工して一本の棒にしたものを与えました。



採餌器及び竹製楽器（オランウータン用）

採餌器は上段はプラスチック製の容器の中にガラス容器が入れるようになっており、そこに蜂蜜を入れておく。下段もプラスチック製の容器でそこにお菓子を入れる。竹でできた棒をそのつど渡し、動物に檻の中から採らせる。楽器はその棒で鳴らせるようになっている。

打ち出の小筒 チンパンジー

これは多摩動物公園ですでに使われています。中に小麦やペレットを入れておいてチンパンジーがそれを振って出てきたものを食べるといった仕組みです。当園ではこれも竹で製作しました。一見上記の説明と相反すると思われるかもしれませんが。確かにいとも簡単に壊されてしまいます。しかし壊されたとしても二次的な被害はなく、しかも材料は安価で、製作もいたって簡単です。そして何より壊す行為自体がチンパンジーにとってエンリッチメントになるのです。



打出の小筒及び竹製楽器（チンパンジー用）
竹製で中に小麦が入っている。下部に直径3mmの穴が開いている。同じ仕様でペレットが入れられるものもある。

お絵かき オランウータン

オランウータンのフトシに画用紙とクレヨンを与えてみました。機嫌良く絵らしきもの（写真）を書いていましたが、最終的にクレヨンをポロポロにかみ砕いてしまうのが難点です。



ハンモック、ロープ
（ウレタン樹脂製）
／オランウータン



お絵かき
（画用紙とクレヨン
を与える）
／オランウータン

縦型竹筒 ゴリラ

竹は地面から引き抜かれないよう、80～100cm程地中に埋め、竹の上部にあけた穴から餌を採る仕組みです。落花生、レーズン、煮干、ペレットなどの餌を、竹筒の頂部から入れ、竹の蓋をかぶせることで、この頂部からは採れないようにしています。

ゴリラは、オランウータンほど器用でなく、穴から餌を採るための竹の棒や小枝を用意しましたが、それらを使用することはなく、人差し指で餌を採り、慣れてくると、竹を叩き、落ちた餌を拾うようになりました。



竹製採餌筒（ゴリラ用）

上部3分の1くらいのところに穴が開いており、中に落花生などを入れておく。動物が指を入れたり、たたくなどして餌が採れるようになっている。

麻袋ハンモック ゴリラ

これは、モモタロウ用に作ったものです。

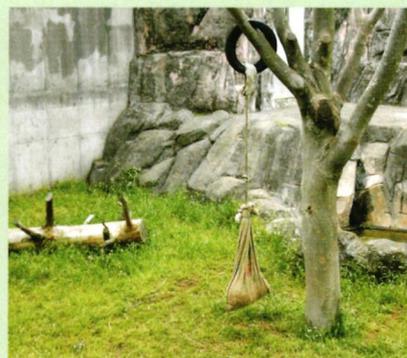
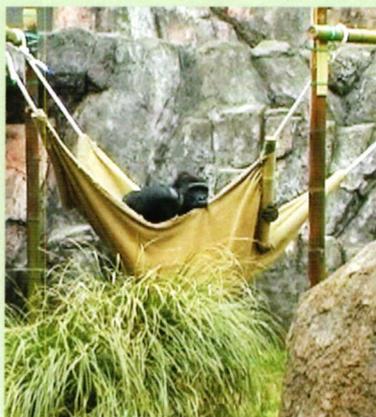
4本の竹を上記と同様の方法で地面に埋め、それらにロープを張ったり、ボールを吊るしたりして見ましたが、モモタロウには不評でした。そこで、普段、飼料用麻袋がお気に入りであることから、これを利用してハンモックを作ることにしました。

通常の麻袋では、すぐにポロボロにしてしまうことから、3重に縫い合わせてあります。結果は好評のようで、天気の良い日には乗って遊んでいるようです。

これ以外にも、放飼場内のケヤキの木に麻袋サンドバック（麻袋の中にビニール製のボールが入っている）が吊るしてあり、モモタロウは、これに乗って、ブランコのように遊んでいます。

伊藤 泰志 (Yasushi Ito)

水上 恭男 (Yasuo Mizukami)



ボール、麦ワラ、ロープ、植樹（ケヤキ）
／ゴリラ

こんな試みも… カワウソ編

肉食動物にとって、最高の愉悦とは何でしょうか？ それは、やはり、生きた獲物を自分の手でハンティングし、食べることでしょう。野生で暮らすこれらの動物が、引き締まった体躯をしていて、生き生きしているのは、自然の掟の中で、その衝動を十二分に満足させられるからに他なりません。しかしながら、動物園動物に生きた餌を与えるのは、非常に制限があります。チータに生きたインパラを与えるのは土台無理な話ですし、商業的に供給されるごく一部のアイテムを利用するしか方法はありません。幸い、コツメカワウソは、生きたドジョウをエサとして使える幸運な動物でした。プールの中にドジョウを投げ込むと、彼らはあっという間にカワウソに食べられてしまいます。プールの床面は、白っぽ



い色で塗装されていて、ドジョウは黒い色をしているので、視力の良いカワウソには全く歯が立ちません。食うものと食われる者の間にはもっと緊迫した関係が必要だと考えた私は、ドジョウが隠れることができる仕掛けを作ってやることにしたのです。作るとは言ってもたいしたものではありません。アシカ放飼場の改修工事の際に不要となった、漬物石くらいの大きさの石を、プールの床面の一部に敷き込んでみたのです。石と石の間隙にドジョウが入り込み、ちょっと見たところではどこにドジョウがいるのかわかりません。カワウソは、石の間に頭を突っ込んだり、手探りでドジョウを感知し、石から追い出して捕食するようになりました。コツメカワウソの非常に敏感な前足による索餌行動を引き出したことは驚きでした。敷石効果のおかげで、ドジョウを全て食べてしまった後でも、餌を探す行動がある程度継続して見られるようになりました。昨年6月から試みていますが、さまざまな方法でこれからも積極的に取り組んでいきたいと思っています。



松本 和人 (Kazuhito Matsumoto)



健康管理センターから

From the Animal Health Center

健康管理センターより

現在、スローロリスは動物科学館の1階に2部屋に分かれて、オスばかり3頭います。

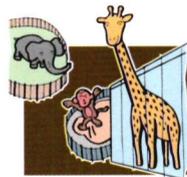
今年3月8日に横浜市立よこはま動物園より、待望のメスが1頭やってきました。この個体は一昨年12月5日に関西空港で密輸により緊急保護されたもので、1年余りよこはま動物園で一時收容されていました。まだ、体重は620gぐらい（成獣で1.2kg）と小さいですが、来園した初日から食欲は旺盛で、夜行性で夜に採食しますが、いつも餌の容器は朝には空っぽで、元気も良好です。

ゴールデンウィークの後には検疫明けの予定で、このニュースが出るころにはオスと仲良くしている姿が見られるかもしれません。

一方、今年4月10日の昼にサル比較舎A棟のパタスザルの2歳の子どもが、ケージの外側の木の葉を取って食べようと、ケージの隙間から右腕を出して木の葉を取り、違う隙間から腕を戻したので、右腕がケージから抜けなくなりました。何とか自分で腕を抜いたのですが、ほとんど動かせず、麻酔をしてレントゲン検査をしました。右腕を脱臼し、右上腕の骨が1本折れていました。後日、肘の脱臼を元に戻し、ギブスを巻いて固定しました。

幸い、元気・食欲は良好で、しばらく療養生活ですが、トラブルがなければパタスザルの群れに戻る予定です。

中村 誠 (Makoto Nakamura)



動物公園ニュース

(動物公園の動物)

フクロテナガザル



モンキーゾーンのサル島に全身が真っ黒で手の長い、ちょっと変わったサルがいます。フクロテナガザル、オスの『ブレイブ』とメスの『ハート』です。

「チンパンジーが“うんてい”しているよ!」「変なサルが鳴いている!」よくそんな声を聞

きます。フクロテナガザルの特徴は“うんてい”のような動きとその大きな鳴き声です。ちなみにチンパンジーとは同じ“類人猿”に分類される仲間です。

“うんてい”のような動きは“ブラキエーション”と呼ばれます。樹上に暮らしている彼らが、上手に樹から樹へと飛び移るための手段です。そのため、名前のおり“手が長く”なりました。両手を広げると1.5メートルにもなります。この長い腕を使って、長い距離を移動することができます。

フクロテナガザルの“フクロ”とは、彼らが鳴く時に大きく膨らませる“のど袋”からきています。この“のど袋”で鳴き声を共鳴・増幅するので、とても大きく、遠くまで届く声が出ます。モノレールの隣の駅でも聞こえます。鳴き声はオスメスの絆を強めるためや、縄張りを主張するためなどの役目を果たしています。一日に2~6回程度、特に開園直後によく鳴いていますので、是非聞きたいという方はその時間を狙ってはいかがでしょう。

これから暑くなると、真っ黒な毛皮を着た彼らは日陰に隠れてしまいます。2頭が見当たらなかつたら、植え込みの中をよく探してください。きっと暑そうにしている姿がご覧いただけるでしょう。

加藤 洋子 (Yoko Kato)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'05年1月1日～'05年3月31日

- 1月1日 マンドリル、発情兆候がある
- 1月2日 初開園
新春お年玉プレゼント
- 1月3日 オグロマーモセット (2頭) 繁殖
アカハナグマ (雄) 死亡
新春お年玉プレゼント
- 1月6日 コシジロヤマドリ 井の頭自然文化園より受贈
- 1月9日 バードウォッチング 開催
- 1月11日 アジアゾウ マウント行動をする
- 1月14日 フンボルトペンギン 産卵
- 1月16日 紙芝居会 開催
- 1月17日 アジアゾウ (雄) 食欲がなくなる
フクロテナガザルに他の個体の鳴き声を聞かせる
- 1月18日 エミュウ 産卵
- 1月19日 アジアゾウ (雄) 食欲が戻ってくる
フンボルトペンギン 産卵 (2卵目)
- 1月20日 オランウータン (雄) チョークとダンボールを与える
少し描くがチョークを粉々にする 寝室でクレヨンと紙
を与えると少し描いた
- 1月22日 マンドリル、クロザルが車の音に驚き怪我をする
- 1月23日 ビグミーマーモセット 繁殖 (2頭)
- 1月24日 アジアゾウ (雌) 破傷風予防接種
オランウータン (雄) クレヨンと紙を与えると描くが
かじって粉々にする
- 1月25日 松ヶ丘中学校2年生、職場体験実習 (25・26日)
- 1月29日 ヘビクイワシ 産卵
- 2月4日 シタツンガ (雄) 姫路セントラルパークより新着
- 2月6日 写真コンクール講演会 開催
- 2月8日 カリフォルニアアシカ (仔) 体重測定: 30.9kg
- 2月10日 スミレコンゴウインコ 産卵 (1卵)
- 2月11日 シロガオマーモセット 繁殖 (3頭)
フンボルトペンギン 産卵



- 2月13日 マー君・リーンちゃん・ズーちゃんと動物公園に行こう 開催
- 2月14日 アメリカビーバー 取材
- 2月20日 紙芝居会 開催
- 2月21日 シタツンガ フェンス越しにペアリングする
- 2月22日 フンボルトペンギン 産卵
- 2月23日 シタツンガ ペアリング
イヌワシ 産卵
- 2月25日 フンボルトペンギン 孵化
ヘビクイワシ 上野動物園に搬出
- 2月26日 カオムラサキラングール 繁殖
- 2月27日 フンボルトペンギン 孵化
ファミリーシアター 開催

2月28日 ワタボウシバンシエ 繁殖 (2頭)



3月3日 類人猿放飼場、ゾウ放飼場、草原B放飼場の前にゴリラ、ゾウ、キリンの立体花壇を設置

3月4日 ヘビクイワシ 産卵 (1卵)

3月5日 コツメカワウソ 交尾



3月7日 レッサーバンダ (雌) 茶臼山動物園より新着

3月8日 スローロリス (雌) よこはま動物園より新着
東京動物園協会より3名研修

3月10日 バードホール工事終了に伴い、コウラウン (17羽) 放鳥
以降順次放鳥する

3月13日 ワンポイントウォッチング 開催

3月16日 チリーフラミンゴ 死亡 (1羽)

3月19日 Zooクイズラリー 開催

3月20日 紙芝居会 開催

3月24日 ヒゲゴシキドリ 新着 (2羽)

3月28日 ニホンキジ 展示開始

3月29日 シロガオマーモセット 繁殖 (1頭)

浅野 洋之 (Hiroyuki Asano)

編集後記

.....
 ゴールデン・ウィークも終わり、当動物公園にも落ち着きが出てきました。“動物さん! ごくろうさん”つかの間ですが、気持ちをリラックスして、次の出番を待っててください。続いて、今度は幼稚園児・小学生といった団体客でごった返すシーズンがすぐ始まります。もう一頑張りお願いしますヨ。

あっという間に、暑い暑い夏になります。好評のサマースクールも間近、そして待望の夏休み。動物公園にぜひお出かけください。一同お待ちしています。

なお、次回発行は平成17年9月1日です。

名和 全孝 (Zenkou Nawa)

お詫びと訂正

前号 (No.55) のP.3で、動物の食事時間をご紹介しましたが、カリフォルニアアシカの食事時間は不定期ですので、お詫びして訂正いたします。コツメカワウソは現在行っておりません。

凛々しい立ち姿の風太君



レッサーパンダ



Information

平成17年6月・7月・8月の 催し物一覧

- ★ 6月19日(日) ワンポイントウォッチング (ラマ)
- ★ 6月25日(土) Zooキッズデー (事前申込制)
- ★ 7月10日(日) 紙芝居会
- ★ 7月27日(水)・28日(木)・29日(金)
サマースクール (事前申込制)
- ★ 8月20日(土) 連続講座①「絵本に描かれた動物」